



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	宮古諸島のサンゴ礁浅海域に生息するウミシダ類の種多様性
Author(s)	藤田, 喜久
Citation	琉球大学21世紀プログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」平成18年度成果発表会
Issue Date	2007-03-10
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/661
Rights	



国立大学法人
琉球大学
University of the Ryukyus

藤田喜久 (Yoshihisa Fujita)

大学教育センター

ウミシダ類は、棘皮動物門ウミユリ綱に属する一群で、現在までに約 560 種が知られている。ウミユリ綱は、有柄のウミユリ類(3 目)と無柄のウミシダ類(1 目)の 2 グループに区別され、棘皮動物の現生 5 綱で最も原始的な体制を有する。ウミシダ類は、棘皮動物の進化を考える上で、系統的・発生学的に重要視され、多くの研究者の興味を引いてきた。また、ウミシダ類は、多様な生物が共生する「宿主」としての役割も果たしており、特にサンゴ礁域に生息する大型のウミシダ上には、造礁サンゴ類にも匹敵する規模の共生生物群集が成立している。また、ウミシダ類は、宿主自体が顕著な移動能力を持つため、多様な共生生物の共存・維持機構を解明する過程において、造礁サンゴ類などの固着性の宿主とは異なる例として極めて興味深いモデル研究対象になり得る。

しかし、実際には、ウミシダ類(およびその共生生物)を扱った研究は決して多くない。その主たる原因として、「分類の困難さ」が挙げられる。ウミシダ類は、比較的体サイズの大きな生物であるにも関わらず、分類学的に重要視される形質は微細である。また、フィールドワークを基とする分類学者が世界的に極めて少なく、生時の状態(体色変異や生態情報など)の記録が乏しいため、野外での種同定は困難を極める。

本研究では、琉球列島のサンゴ類浅海域(40m 以浅)に生息するウミシダ類相を解明することを目的として、宮古諸島に生息するウミシダ類の分類学的研究を行った。

現在までに、宮古諸島(宮古島、伊良部島、下地島)周辺海域において、142 個体を採集することができた。現在、標本の精査を進めているが、少なくとも 9 科 25 属 53 種が含まれているものと思われる。特に、転石帯や海底洞穴内から採集されたヒメウミシダ科のウミシダ類の大部分が日本未記録種または未記載種であると考えられる。ただし、ヒメウミシダ科のウミシダ類は、科全体の再検討を必要とするものと思われ、本研究で得られた種の記載にはかなりの時間を要することが予想される。

演者はこれまでに、沖縄島周辺海域から 7 科 22 属約 42 種のウミシダ類を記録したが、本研究では、1 年に満たない短期間の調査にもかかわらず約 53 種ものウミシダ類を記録した。また、沖縄島と宮古諸島の両海域の結果をあわせると、演者がスキューバ水深帯で確認したウミシダ類の種数は 61 種以上にもなり、琉球列島海域は、ウミシダ類にとっても高い種多様性を示す海域であることが示された。